



Taka Ishii

Gallery

Photography / Film

6-6-9 2F Roppongi Minato-ku Tokyo
#106-0032, Japan

tel 03 6447 1035

fax 03 6447 1036

web www.takaishiigallery.com

email tig@takaishiigallery.com

村越としや 「木立を抜けて」

会期：2013年4月12日(金) - 5月11日(土) [ゴールデンウィーク休廊：5月3日- 5月6日]

会場：タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルム (東京・六本木)

オープニング・レセプション：4月12日(金) 18:00 - 20:00

タカ・イシイギャラリー フォトグラフィー/フィルムは、4月12日(金)から5月11日(土)まで、村越としや個展「木立を抜けて」を開催いたします。本展では、2009年の春から初夏にかけて村越が故郷である福島県須賀川市周辺にて撮影を行った作品より15点の未発表作品を展示いたします。

2009年1月、年明け早々に祖母が入院した。

余命は3ヵ月と宣告された。

僕は時間がある限り実家に帰り、居なくなってしまう祖母の写真を少しでも残したいと思った。

会いにいくたびに痩せて弱っていく祖母の写真は殆ど撮ることはなかった。

でも、実家に帰れば祖母の影を追うように実家周辺を歩いては写真を撮った。

死の宣告通りに祖母は4月に他界した。

お葬式、四十九日、お盆があつという間に過ぎた。僕はその後も実家に通い写真を撮り続けた。

そして、2009年は終わった。

写真の整理を始めると、少しだけ残った祖母の写真からよりも実家周辺の風景を撮った写真から強く祖母の存在を感じることが出来た。人の記憶は少しずつ薄れてしまうけど、祖母と過ごした故郷の小さな風景、そこに刻まれた記憶の欠片はきっとこの先も残っていくんだと感じた。それまではどんなに変哲もなかった風景でも、今となっては美しい記憶になっている。

村越としや

東京を拠点に制作を続ける村越は、2006年以降故郷を被写体を選び、そこで過ごした記憶をなぞるように継続的に撮影を行っています。それらは、2008年以降既に5冊の作品集に纏められ、加えて自身も参加メンバーである自主ギャラリーTAP等で展覧会を行うことで積極的に発表されてきました。今回展示される作品は、2009年祖母の死を経験したことで、地元の風景を撮ることと家族との思い出がリンクするようになった時期に撮影された作品で、『雪を見ていた』(2010年刊)、『土の匂いと』(2011年刊)に続くシリーズとして纏められます。村越は東日本大震災以降さらに撮影を続け、それまで以上のペースで作品発表を行っています。新作と並行して過去に撮影された作品の発表も同じように行っています。決して切り離すことができない様々な時間軸と向き合う村越の姿を、この機会に是非ご高覧ください。

【作品集詳細】

村越としや『木立を抜けて』

販売価格：¥ 2,520 (税込)、TAP/タカ・イシイギャラリー 刊 (2013年)

ハードカバー、40頁、掲載作品19点、H 18.3 x W 15.5 cm

2013年4月刊行予定

是非、貴誌・貴社にて御紹介下さいますようお願いいたします。尚、掲載用写真の貸出など、御質問がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

タカ・イシイギャラリー 展覧会担当：菊竹寛 プレス担当：増山貴之

〒135-0024 東京都江東区清澄1-3-2 5F tel: 03-5646-6050 fax: 03-3642-3067

e-mail: tig@takaishiigallery.com website: www.takaishiigallery.com

営業時間：12:00-19:00 定休日：日・月・祝日



村越 としや

「木立を抜けて #06」2009年

ゼラチン・シルバー・プリント

ペーパーサイズ：27.9 x 35.6 cm

イメージサイズ：24.8 x 24.8 cm



村越 としや

「木立を抜けて #13」2009年

ゼラチン・シルバー・プリント

ペーパーサイズ：27.9 x 35.6 cm

イメージサイズ：24.8 x 24.8 cm